



No.37

2015年2月1日 発行
発行 仙北市議会
編集 仙北市議会
広報編集・特別委員会

こんにちは

仙北市議会です



**出初式、分列行進
1月6日西木町漆原**

| | | |
|----|----------------|--------|
| 目次 | 第7回仙北市議会12月定例会 | 2P |
| | 予算常任委員会報告 | 3P |
| | 一般質問 | 4~10P |
| | 各常任委員会 | 11~13P |
| | 議会報告会 | 14P |
| | 予算常任委員長報告 | 15P |
| | 傍聴席・編集後記 | 16P |

議会力を 支える議員力

仙北市議会議長

青柳宗五郎

執行機関である首長は、予算の編成権と、殆どの議案の提出権を持っています。これが首長の優位性と言われる所以です。

しかし、19人の議員が、首長より何倍も、徹底して市民と結びつく事によって、首長をはるかに凌ぐ、情報を持つ事ができるはずで、政策を判断する上で、最も大切な情報は、役所の中ではなく、地域にあるからです。これらの情報を基に議論を尽くした結果としての全体合意が、行政を動かす得る「議会力」となるのです。

昨年の審議結果では、「4件の修正可決」と「1件の否決」となり、客観的には市議会が機能していると言えます。

議員には、政府の課題や論点を抽出できる分析力と洞察力が求められます。

普段の研鑽による「議員力」に基づき、市民にとって、分かり易い議論の積み重ねがあって初めて、信頼は付いてくるものと考えます。

人口減少が自治体の存亡をも脅かす昨今、市民、議会、市長や職員との更なる対話が重要となります。議会力を高め、それを支える議員力を高める事が不可欠なのです。

合併から10年を迎える節目にあり、あらゆる人々との対話により、仙北市の経営に向けた着実な合意づくりができてこそ、次の10年に繋がるものと確信しています。

(1月8日記)

第7回 仙北市議会12月定例会

用地取得案を否決 一般会計補正額

1億3023万円に 補正後累計は189億3403万円に

27案件を審議

12月定例会は11月28日から12月19日までの22日間の会期で開催された。

最終日に田沢湖浄化センター工事委託に関する協定変更案の追加提案があった。誘致企業の用地追加取得案は否決された。

用地追加取得に伴う造成費約2014万円を予備費に繰り入れた一般会計補正予算案修正案などの提出案件26件は可決・承認された。

尚、教育委員任命案と農業委員推薦案については初日に同意承認された。

◎議案第130号

土地の取得の一部を変更することに

反対討論

今回の(株)食品工業の土地の取得が計画の変更によるものとの事だが、口頭のみで、詳細な図面や計画概要等も示されず不明確である。企業側の誠意が示されないまま進んでいく事には、市民の不安が増大し、今後に大きな問題を残すと考える。

【採決】

反対多数で否決されました。

(熊谷一夫記)

平成26年 第7回 仙北市議会定例会賛否が分かれた議案(招集日:11/28 最終日:12/19)

凡例：賛→賛成、反→反対 欠→欠席 (議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています)

| 議案番号 | 会派及び氏名等 件名 | 議決月日 | 議決結果 | 仁政クラブ | | | | | 民政会議 | | | | 翠 緑 会 | | | | 市民クラブ | | 会派に属しない議員 | | |
|---------|---|-------|------|-------|------|------|-----|-----|------|-------|-----|------|-------|------|-------|------|-------|------|-----------|------|------|
| | | | | 黒沢龍己 | 田口寿宜 | 佐藤大成 | 高橋豪 | 稲田修 | 伊藤邦彦 | 阿部則比古 | 安藤武 | 門脇民夫 | 小林幸悦 | 真崎寿浩 | 荒木田俊一 | 大石温基 | 八柳良太郎 | 小田嶋忠 | 平岡裕子 | 熊谷一夫 | 高久昭二 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 議案第89号 | 平成25年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について | 11.28 | 認定 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 反 | 賛 | 賛 | |
| 議案第110号 | 仙北市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について | 11.28 | 可決 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 反 | |
| 議案第119号 | 平成26年度仙北市一般会計補正予算(第8号)修正案 | 12.19 | 修正可決 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 欠 | 反 | 賛 | 賛 | 反 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | |
| | 平成26年度仙北市一般会計補正予算(第8号) | | | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 欠 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 |
| 議案第130号 | 土地の取得の一部を変更することについて | 12.19 | 否決 | 反 | 反 | 反 | 反 | 欠 | 賛 | 反 | 反 | 賛 | 反 | 反 | 反 | 反 | 反 | 反 | 反 | 反 | |
| 議案第135号 | 仙北市教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて(河原田修氏) | 11.28 | 同意 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 反 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | 賛 | |

予算常任委員会報告

平成26年度一般会計補正予算（第8号）についての議案を12月11日・12日の2日間の日程で分科会審査を行い、16日に各分科会の審査報告及び質疑、18日には討論・採決を行った。（各分科会の質疑は、委員会報告にて記載）

企業誘致対策事業費の修正案提出される

修正内容

追加で取得する土地3,890㎡の用地造成費用と、市道生保内黒沢2号線の拡幅にかかる改良工事費用との合計額2千14万8千円を削減して、同額を予備費へ組み替えるものです。

修正案提出理由

1 企業誘致対策事業として、土地の取得費用や造成工事費等に、これまで、約2億円の市税をつぎ込んできた。しかし、市当局からは、昨年からの課題である「現地法人の立ち上げ」「協定書の締結」「工場の配置図」「今後のスケジュール」「東北工場への現地視察」等、これらの具体的な内容が、今定例会においても何一つ示されていない。市民からは「確実に本市へ来てくれるのか」との不安が増大している。従って、これ以上の市

民の血税を投下する事は、確実な誘致に向け一歩でも進展が無ければ認められないものと判断する。

2 新たな雇用を創出し、産業の振興、しいては、地域の活性化にもつながる企業の誘致は、議員全員が望み、期待するものである。

しかし、度重なる計画変更の都度、かかる経費も嵩む現状にある中、果たして「相手企業との協議が円滑に行われているのか」と懸念される。従って、今後の方向性を含めた具体的スケジュールを、早急に市民へ提示すべきである。このままでは、相互の信頼関係が失われかねない。

3 当初の計画による約25,000㎡の土地取得と、その造成工事の経費は、既に承認済みであり、入札・契約後は直ちに造成工事に取り掛かる事ができる状態にある。まずは、現状の範囲において、進捗が見られることこそが、

「市民へ安心感を与える」「市民の不安感を払拭できる」との判断する。従って、先の課題解決に向けて進展が確認されるまで、凍結すべきである。

■修正案に対する討論

反対討論①

本市の急激な人口減少の要因の一つは、雇用の場が少ない為で、若者の流出に大きく影響している。生まれ育った故郷に住み続けることを望む多くの市民もいる。その希望を叶えるには職場が必要である。ここは、万難を排して、企業を誘致する為の用地を確保し整備しなければならぬ。

反対討論②

市内の雇用を創出させる事は、重要な政策の一つで、誘致活動を継続させる事が大切である。覚書では、市が工業用地を取得し、造成し、必要な準備をするという公文書での約束である。この時点で造成を認めない事は、公文書で交わされた約束を市が反故にすることに異なる。それが、本市への進出の可能性の芽を摘む事にもつながる。

企業の進出に期待し、Uターンしている若者や盛岡、北上などの遠方まで職場を求め

ている実態もあり、企業誘致に希望を託し、実現に向けての激励も頂いている。仙北市は、若者の定住に寄与する環境を整備すべきである。

賛成討論

合併前の西木村時代には、誘致企業の為に約1億円をかけ工場用地を造成した経緯があるが結果として企業の立地にまで至っていない。こうした経緯からも、口頭の協議だけでは非常に危険ではないかと危惧される。これまで企業誘致に約2億円を投下した事の問題点は拭いきれず、現段階で再度、土地を購入し、造成する事はリスクが大き

い。

現段階で、現地法人も設立されていないし、所管委員会の工場視察も実現されず、企業が立地すると言っている確実性においては不透明である。

こうした状況で追加投資しても、トラブルや行き違いによる誤解が生じた場合には、その対応も心配される。更なる一般財

源を投下し続ける事が市民の為になるのか、という事を私達は冷静に判断すべきである。

【採決】

賛成多数により、修正案は可決されました。

■修正可決した部分を除く補正予算原案に対する採決【採決】

賛成多数で、原案は可決されました。

（熊谷一夫記）



予算常任委員会風景



定住人口、交流人口対策を
市長 定住対策促進室(仮称)の設置や
次期発展計画で対応
仁政クラブ 田口寿宜 議員

仙北市の未来を想う

問 地域資源を生かした定住人口及び交流人口対策を柱とした産業振興も選択肢の一つとして、集中して取り組むべきではないか。

答 定住促進については、平成27年4月の組

織再編では、定住対策促進室(仮称)を設置し、従来の定住促進施策の他、不動産業界との連携による空家の掘り起こし、空き家バンクのホームページ一新、地域おこし協力隊等との連携を行い、集中的に取り組むたいと考えてい

る。企業誘致などの産業振興については発展計画に基づいて事業を進捗してきたが、達成できていない部分が相当ある。次期発展計画では、それをクリアした上で、さらに新しい時代に即応していかなければいけないと思っている。

問 庁舎整備基本構想について、市内10ヶ所で住民説明会を開催。様々な貴重な意見や提言が寄せられた。しかし、参加者が少なかつた。これは何を物語っているのか。

答 周知方法が問題なのか。会議の案件に興味がないのか。市の行政への期待がないのか。要因を分析しきれてない。また、若者の出席が少ないことも大きな問題として考えている。補正予算でお願いをしているアンケート調査では、年代別の考え方も把握したい。アンケートや意見交換で細やかに市民の意

見を汲み取って、それを行政に反映していくことが市長の責務だと考えている。

問 市立角館総合病院建設について、具体的な医療ビジョン・計画がしっかりと示されていない中で進んでいる感がある。経営は成り立つのか。その根拠は。

答 市立角館総合病院の基本方針は、平成22年3月作成の新病院基本構想に示してある。引き続き仙北市の基幹病院として、仙北市民はもちろんのこと二次医療圏、圏域の住民の方々の生命と健康を守ることを叶える準備が進んでいる。経営状況等については平成25年度末で15億700万円の累積欠損金があるが、これの多くは減価償却費であり、現金支出を伴わない費用で、危惧する負債とは全く違うものである。減価償却費を除いた現金留保については、平成29年の病院建築予定年度以降も黒字を維持できる試算となっている。

答 昭和51年から女岳の地温観測を継続的に実施している。今年1月に設置された秋田県の秋田駒ヶ岳、秋田焼山の火山防災協議会でも地温の測定の実績について相談していきたい。

問 避難用具の備蓄について、避難場所に指定されていない箇所にも備蓄をすべきではないか。

答 一定期間をもつて入れ替えが必要な備蓄、非常食等は東地区公民館で一括管理されている。毛布、タオル、発電機などは各庁舎や公民館で管理している。災害が発生した場合、状況に応じて被害箇所集中搬送するという考え方で、搬送先は56ヶ所指定されている。

問 平成27年の防災月間・週間では、どのような事を考えているのかを伺いたい。自主防災組織サミットを開催してみてもどうか。

答 平成27年の秋田県総合防災訓練の会場が仙北市に決定しているが、市の防災期間中に開催できるように県と協議を行っている。

(黒沢龍己記)



老朽化が著しい角館庁舎

見を汲み取って、それを行政に反映していくことが市長の責務だと考えている。

問 駒ヶ岳は、特に地温測定について、常に観測をしていく体制を整えるべきではないか。



市立角館総合病院の建設について

市立角館総合病院は将来の人口減少を考慮した規模に病床数等を縮小し、再設計すべきでないか

市長 将来の人口減少にも対応できる病床数等である

民政会議 阿部 則比古 議員

問 病院設計の着手時の想定より、市民の人口減少率が加速している。今後20年あるいは30年先の市民の人口や年齢別構成比をどのように推計し外来及び入院患者数を想定しているのか。

答 患者数については平成22年国勢調査や、最新データに基づき推計している。

入院患者数については、平成23年度国保診療レセプトから仙北市全体の入院患者数を推計した。又、角館病院の院内レセプトデータから入院患者数を抽出し角館病院における仙北市の入院患者のシェア率を算定し、その係数を乗じて開院10年後、20年後の将来入院患者数を推計、さらに、それに病院稼働率90%を乗じて病床数を算出した結果、一般病床170床、精神病床36

床、合計206床となり、それが病床数及び病院規模の算定となっている。

問 病院スタッフが患者への対応が悪く、それが市民に広く定着してしまつた。病院を改築したとしても、ここまで評判を落としてしまつては、失地回復は無理と推論するほうが道理と思つた。改善策はあるのか。

答 平成25年1月、民間企業で実績のある会社に委託して外来、入院での病院対応、病院設備、病院ニーズについて患者満足度調査を

実施した。

その結果は外来に関する一番の不满は待ち時間の長さで、今回の改築に当たっては、診察前待ち時間対応として、各診療科単独受付システムを導入し、受付業務の簡素化と待ち時間の短縮を図る。さらに、待合スペースに受付番号電光表示を予定し、患者の皆様が不安にならない対応をする。また、診察後の会計を行う待ち時間対策として、電子カルテを導入し会計までの時間短縮を行う。しかしながら、一番の苦情対応は看護師などによる患者に対する声かけが重要である。患者は具合が悪く来院しているうえに、忘れられているのではないかという不安が重なり、それが病院に対する不満となつて、現れていることが多いということ

が、調査結果でわかりました。患者に対する声かけが、何よりも大切な対応であり、こ

の声かけは、現在改善の取り組みとして行っている。

平成23年度以降、患者の様々な苦情に対して、院内の各場所に意見箱を設けて、お名前がある方には直接手紙で、お名前がない方は病院内に内容等を掲示して改善を図っている。苦情は年々減少し、お礼の意見が多くなつている。しかし、苦情がなくなつた訳ではないので、地道に患者の意見や苦情について、真摯に対応するとともに患者への対応の向上に努め、病院としての信頼を高めて行くことが最も大切なことだと思つている。

問 多額の病院建設費用で将来病院会計が破綻するのではないのか。

答 病院建設費用の財源は一般会計と病院事業会計から約50%ずつが支出される。

一般会計では過疎債で充当される。過疎債はその70%が地方交付税として国から交付される。

病院事業会計でも地方交付税算入があり国から補填される。病院事業会計の赤字による資金ショートが何より心配であるが、その部分ではしっかりとした目標設定

の返済計画により回避できる内容である。

問 現状変更がいかに困難であっても、開業が遅れようとも、万難を排して人口減少に対応する、規模縮小の再設計をして出直すべきではないか。

答 平成25年3月に策定された秋田県医療保健福祉計画での大曲仙北医療圏の基準病床というのは、1,035床となっている。しかし、現在の大曲医療センターの病床数及び新角館総合病院の計画病床数を含めて医療圏内病院の病床数は970床となり計画より60床以上が少ない状況であり、将来の人口減少にも対応できる病床数を考えて圧縮している状況である。

(門脇民夫記)



外構工事が進んでいる病院建設地



病院完成予想立体図

用語解説

資金ショート…資金が不足して支払いができなくなること。



翠巒会 荒木田 俊一 議員

第三子からの誕生祝い金制度を 確立せよ

市長 対象を第二子からも含め検討

市長の政治姿勢について

問 門協市政二期目の今

の時期は重要案件がめ
じろ押しでそれぞれ課題を
もって臨んでいと承知して
いる。また、住民の諮問委員
会や他の手法を取り入れ、市
政に反映されているとは思
うが、本場に十分な情報や資料
提供がなされているのか、誤
解を招くような、あるいは都
合の良いところだけを提示し
ているのではないかという心
配があるがどうか。

答 議員の方々の議論

はもちろんであるが、
市民の意見を聞き、できる限
り市政に反映することを政治
信条としてこれまであたって
きた。今後この姿勢は崩し
たくない。
不都合な情報を隠すつもり
は毛頭ない。

問 庁舎整備構想案で、
まだ角館総合病院の建

設目途が立っていない時点で説
明会を行うことは非常に危険
である。

市民は病院建設と庁舎建設
が抱き合わせの事業として捉
えられてしまうような誤解を
生む可能性もある。さらに、
説明の際いろいろ課題が出さ
れ、今度はアンケート調査を
すると言うが、これは後付け
ではないか。

答 病院建設が確定した

かのような議論で庁舎
の説明をしてきたとは思って
いない。
アンケート調査を後付けと
取られても仕方がないとも思
うが、説明会で出された課題
を今後10年間の発展計画に盛
り込むには、計画年度前に先
取りした形でアンケート調査
をしたいという提案であり、
決して後付けという思いでは
ないと理解して頂きたい。

市立角館総合病院改築 事業について

問 起債だけに頼る建築

はできると思うが、そ
の後の運営で、資金ショート
に陥ることはないのか非常に
心配である。

答 さきの病院建設特別委員会

で個室にトイレを設置するこ
とを提案した際に、これ以上
の建築費の増加は病院経営を
圧迫するとの説明であった
が、今回補正しても実質の償
還額は年間2千万円ぐらいし
か増えないから大丈夫との答
弁である。この整合性をどう
とらえればいいのか理解でき
ない。

答 今回の補正は平成29

年に向けて継続費の設
定であり、現状では総務省
等々の理解は得られてる。し
かし、今後の国政の状況によ
り絶対ではないとの思いもあ
る。県及び総務省の担当から
は現在のところは可能との判

断である。
大変苦しい経営ではある
が、今後資金ショートを
起こすことなく留保財源
1億3800万円を確保して
運営することが出来るとい
う状況である。

農業問題について

問 地域農業再生協議会

で設定する基準反収
量は、なぜ市で一つしかない
のか、中山間地の多い仙北市
において、地域環境に応じた
基準反収を設定していかない
は、行政による農家いじめで
はないか。

答 農業委員会からの

建議書に、本市
の地理的条件を考慮し、
市統一の米の反収から
細分化された地域反収
を農業施策に反映しな
ければならないという
提案もありましたので
方向性を導く作業に入
りたいと思っている。

子育て支援について

問 合併前は各市

町村で子供の誕
生を祝う制度があつた
が合併後は見えなくな
ってしまった。少子
化対策は国を挙げての

状況にあるが、なかなか効果
は見いだせていない。
このままでは大変だとい
う危機感は皆が共有できる
ものと思っている。そこで、
第三子からの誕生祝い金制
度をつくって子育て支援を
していく考えはないか。
答 第三子以降の優遇の
前にまずは第二子まで
産んでいただく環境を作る
ことが第一歩であるとの思
いもある。制度の検討はす
るが、対象を第三子以降にする
か、第二子からスタートする
かも含めた検討をしていき
たい。

(小林幸悦記)



子育てしやすい環境を



市民クラブ 小田島 忠 議員

角館駅東西自由通路整備 果たしてその効果は？

市長 駅利用者の利便性が向上し、観光客の町歩き拠点となる

角館駅東西自由通路整備について

問 自由通路の整備で、駅の利便性や街中の賑わいは具体的にどのようなように図られるのか。多額の費用で本当に整備する必要があるのか。

答 現在、市がJR秋田支社の協力を得ながら設置要望をしている自由通路は、オーバー方式で、駅舎に手をかけずに駅構内を通り、人と自転車を中心に通行ができる通路の実現を目指している。駅の東側地区は、もともと田園地帯であったが、現在は公園や駐車場が整備され、そこから新たに作られた住宅地や商業施設が立ち並び、国道105号に接続する駅東中央線の整備も一通り完成している。自由通路の設置で、東側地区からのアクセスが格段に向上する。これにより、角館駅の乗降客数を増加させ

ることができれば、始発新幹線の停車運動なども、より説得力を増すことが可能となる。

駅前はその町の顔とも言える。観光協会などと連携をして、「まち歩き」など、外町や田町武家屋敷通りへの動線を描くような、各種観光メニューを造成し賑わいづくりに努めると共に、新たな発展を追求する。

問 対象となる利用者をどう捉えているのか。

答 市民をはじめ、市外の方々の利用が増加すると考える。また、観光客には駅東側を「まち歩き」の拠点として頂けるようにしたい。

松木内・西明寺地区のバス運行について

問 デマンドタクシー以外に低負担で利便性の高い手段はなかったのか。また、地域に見合った交通

サービスを適切に提供しているのか。

答 西木地区の路線バス廃止に伴い、平成24年度からデマンド交通を導入しているが、利用者は年々増加している。県の補助制度も利用し負担軽減に努めながら利便性を向上することが出来ている。これまでの課題や地域の要望に応えるため、路線変更や停留所など、地域の交通環境を踏まえながら良い仕組みになるように対応している。

問 地域公共交通政策の方針策定や実施体制に不備はなかったのか。

答 市では本年度、独自の公共交通ビジョンの検討作業に入っているが、来年には地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が一部改正される予定である。こうした国や県の動きの把握に努め、現在の検討作業の成果を

生かしながら、仙北市としての新交通網の形成の策定を急ぎたい。

伝建保存地区（武家屋敷通り）の整備と景観保全について

問 弘道書院の復元の見通しは。

答 平成25年度から、平面図、町割り絵図等を参考に、施設の遺構特定につなげるため、数箇所の調査を行ったが、結果として弘道書院の遺構・遺物に結び付く発見はなかった。来年度更に調査をし、町割り400年となる2020年には何とか完成させたい。

問 伝建群選定当時は古いものを保存し誇れるまちを造ることを目的としたが、現在は観光化が進み、伝建群地内を人力車が走っている。こうした現状をどう考えるのか。武家町の在り方を問う。

答 人力車は現在2社が営業している。観光客からは、武家屋敷に合う、風情がある。また、説明があることで散策の楽し

さが倍増したなど、総じて好意的な評価ではある。しかし、路上待機による交通の妨げ等を懸念する場面も見受けられる。伝統や街並みを守ることと、観光事業とは隙間があるが、200万人を超えるお客様を迎える町として、喜んでもらえるコンテンツの一つと捉えることもできるのではないかと。安全対策が何よりであり、路上待機時のあり方について、待機場所の選定なども含め、観光協会、人力車関係者と協議を進める。

(高久昭二記)



観光地化が進む武家屋敷通り



公明党熊谷一夫議員

超高齢化社会をむかえるにあたりその対応は万全なのか（認知症対策と施設のバリアフリー化について）

市長 しっかりと対応していきたい

秋田県の高齢化率は、平成26年7月1日現在30・7%と全国一位であり、仙北市は約35%とさらに高くなっている現状において、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境づくりが喫緊の課題となっている。公明党のアンケート調査により、超高齢者社会を迎えるにあたっての問題や課題が浮き彫りになったが、仙北市の認知症対策と公共施設のバリアフリー対策について問う。

「このころの体温計」の導入を図る考えはないのか

答

今年度、第6次介護保険事業計画、第6次後期高齢福祉計画策定にあたり調査を行い、今後の施策に反映させることとしているが、公明党で行った調査においても、重要な視点については内容を参考にしたい。

①認知症と認定された患者は何人か。その取り組みは。

- ②認知症サポーターの認定者数とその具体的な活動は。
- ③早期発見対策としての訪問支援、地域への「出前講座」等の活動は行っているか。
- ④タッチパネル式コンピューターを用いた「もの忘れ相

談プログラム」を導入し、早期発見と予防事業を積極的に展開する予定は。

⑤インターネットを活用したメンタルチェックシステム

「このころの体温計」の導入を図る考えはないのか

今年度、第6次介護保険事業計画、第6次後期高齢福祉計画策定にあたり調査を行い、今後の施策に反映させることとしているが、公明党で行った調査においても、重要な視点については内容を参考にしたい。

①介護保険申請時の認知症自立度調査での人数は、12月1日現在で、1436人で、6年間で約20%増加している状況である。包括支援センターにおいて相談を受けているが、相談できない高齢者については個別に訪問して対応している。高齢者実態把握事業として毎年度300件ほど行って、早期

発見や相談のきっかけづくりをし、日常的に、関係機関、警察、消防等と連携し、事故防止に努めている。今年度「認知症SOSメール」に取り組み、行方不明時の早期発見につながる体制確立を急いでいる。

②認知症サポーターは、平成20年度からの取り組みで、目標を超える1744人となっており、地域での見守りや早期発見につながる活動を行っている。

③認知症早期発見対策として、出前講座や講話を行っている。平成25年度は24回の実績がある。

④導入に関して、今年度試験的な体験を行ったが、精神的なフォローが必要になる等、細部の検討が必要ではないのかという判断に至った。組み合わせによる事業においての優位性もある

⑤「このころの体温計」は介護を行っている家族の心のケアや、自殺予防等に活用できるものと考えており、導入について前向きに検討したいと考えている。

⑥視聴覚・言語等障がい者への窓口対応は万全か。

⑦十分な状況とは言えず、今後順次整備をしていく。

公共施設のバリアフリー化

問

⑦車いす利用者への対応は万全なのか。（駐車場スペースや案内表示等）

①各庁舎における車いす利用者用トイレの整備は。段差やアプローチ等の対策は万全か。エレベーター設置の考えは。

②視聴覚・言語等障がい者への窓口対応は万全か。

③バリアフリー新法が施行されて8年になるが、税制上の特例措置や補助・融資制度等を活用し、バリアフリー化を進めてはどうか。



JR 田沢湖駅の身障者用駐車場

答

⑦十分な状況とは言えず、今後順次整備をしていく。

①設置できるスペースがある庁舎については車いす用トイレの整備を急いで行いたい。スロープ等は基準を満たしている。エレベーターの設置については具体的な検討はしていない。

②聴覚に障害をお持ちの方には筆談で対応している。③事業導入に対しての条件を満たすものは無いものと認識している。

問

若者の地方定住化戦略の推進による「地域おこし協力隊」で地域の雇用創出を図ってはどうか。

また、定住支援のコーディネートや相談に応じる「ワンストップ窓口」を設置する考えはないのか。

答

来年度に、2名程度受け入れを前提に準備を進めている。平成27年4月の組織再編において、定住促進全般を所管する「定住対策推進室」（仮称）において対応し、サポート体制をワンストップ化するシステムを構築していきたい。

（真崎寿浩記）



AED設置マップを作成し
市の広報に掲載を

市長 市の広報、
ホームページにも掲載

翠巒会 小林幸悦 議員

100キロチャレンジ マラソンについて

問 100キロチャレンジマラソンは、平成27年、第25回大会の開催を予定しているが、それ以降については、資金不足、ボランティア不足などの理由から、これを最後の大会にしたい旨を大会実行委員会から県の方に伝えたところ、県からは引き続き実施してほしいとの要請もあり、最終判断はまだしてないようだ。

答 この大会には毎年1700人前後の参加者がいて、地域の活性化はもちろん、観光振興にも十分貢献していると認識している。
関係自治体と大会実行委員会では、今後の対応などの協議はしているのか。

これは、これまで協議で、県と内陸縦貫鉄道本社及び各団体、関係市・村、

ともにこの活動、イベントについて応援していくという意思決定があったと認識している。今後具体的な協議を重ねていく。

浄化槽設置事業について

問 平成27年度から、市設置型浄化槽事業を廃止し、個人設置型に移行していく計画のようだが、受益者にとつては、市設置型の分担金に比べ、個人設置型の場合、補助金制度はあるが、負担額がかなり多くなる。

答 個人負担軽減の対策として、さらに、市独自の嵩上げ補助をする考えはないか。
また、市設置型の浄化槽は、10年経過すれば民間譲渡ができるが、本市の考えは、

個人負担費用を軽減し、少しでも多くの方に制度を利用してもらえるよう、従来の国・県・市の補助金に加え、市独自の嵩上げ

をしたかと考えている。譲渡については使用者からの理解を得て進めていく。

住宅リフォーム 促進事業について

問 住宅リフォーム事業は、県と市の補助金を

合わせると、最大35万円の交付が受けられることから、利用者のみならず工事業者からも好評である。これまでも多くの方がこの制度を利用してきたが、来年度の実施見込みについて伺いたい。

答 県でも事業を継続したいという意向は聞いている。

市に対しても、関係団体や市民の方々から、事業の継続を要望されている状況もあり、市としては、事業を継続していく作業を進めていく。

地籍調査について

問 現在、角館地区の地籍調査が実施されているが、ここ数年の実施面積は、

0.2から0.4km程度であり、今後もこの程度の調査面積が進めていくのであれば、まだまだ、相当数の年月を要すると思われる。

今後、調査面積を拡大し、早期完了を目指す必要がある。

答 現状で推移した場合、完成まで80年以上の歳月を要する計算になる。人事等も配慮し、補助事業の採択についても、実施面積の拡大を要望し、年2kmの完全実施を目標に、まずは、平地での事業完了を目指していきたい。

問 AED設置を望む声が聴かれるが、希望箇所に全てとなれば、本体価格に加え、後年、バッテリーや各パーツの劣化による、メンテナンス費用も必要になり厳しいと思う。

答 まず、市の広報、ホームページに、市が保有するAEDの設置箇所を掲載し、企業等からは確認を得て公表する。
さらに、AEDをしつかり運用できる勉強、講習を受けってもらうことも重要と考える。

(佐藤大成記)



リフォーム現場



仁政クラブ 稲田 修 議員

市立病院経営
責任の所在をはっきりと

市長 病院経営は医療局が責任を持つ

市立病院経営について

問 市立病院建設が遅れた原因を精査しそれを共有する必要があるがどうか。また、今後更なる建築費増額はあり得るのか。

答 病院建設に市民の意見を反映させるための委員会を設置し、協議の時間を確保するため完成時期を1年延期したことが遅れの主な理由である。その間、資材や人件費が高騰し、建設費が大きくなり上げられる結果となったことについての指摘は甘んじて受けた。また、9月1日の入札不調後、設計業者等関係機関とその原因を丁寧に精査し実勢に見合った実施設計額を設定したため、今回の額での入札執行は可能であると判断している。

問 病院経営における責任の所在をはっきりするべきではないか。

答 病院経営には医療局が大きく関わっている。角館病院のみならず市内の病院事業全てを見渡し、その充実を図るため、医療局は横断的であり、その責任の所在は当然に医療管理者、医療局にあると考える。

問 現在進行中の企業誘致について、誘致確約のタイミングはいつか。

企業誘致の促進を

答 まだ形にはなっていないが、実際に数社の企業に対して誘致の交渉をしている段階である。最大限議会と情報を共有していきたい。

問 秋田県では、仙北市の取り組みをきっかけに、雇用創出効果や県内経済への波及効果が高い企業立地

答 秋田県では、仙北市の取り組みをきっかけに、雇用創出効果や県内経済への波及効果が高い企業立地

問 司食品工業の誘致案件においては国県の補助は得られるのか。

答 司食品工業の誘致案件においては国県の補助は得られるのか。秋田県では、仙北市の取り組みをきっかけに、雇用創出効果や県内経済への波及効果が高い企業立地

問 住民説明会を行ったが各地区の具体的な反応はどうであったのか。

答 田沢湖地区では、現在の分庁舎方式で何ら不便がないという意見が大勢を占めていた。また、財源を庁舎整備ではなく、さらに必要な雇用創出、地域活性化等に振り向けるべきとの指摘もあった。西木地区では、庁舎整備案件が唐突ではとの意見があった。また、できるだけ近い所で行政サービスを受けることが望ましいとの要望も受けた。角館地区は、病院跡地の活用は財政面が考慮されている提案だとの意見が多かった。

問 100キロマラソンの継続を

答 100キロマラソンが中心となり多くのボランティアによって運営されているが、高齢化等での運営が大変厳しくなっていることも事実である。金銭的な懸念もあるが、事務方の負担軽減のための業者委託も慎重に検討する。力を結集し、継続できるように頑張りたい。

(高橋豪記)

問 100キロマラソンの継続を



100km マラソン

総務文教常任委員会

市総合計画策定のための市民アンケート調査費に議論集中

田沢湖再生と市全体の観光客増加に有機的結びつきを強めるための施設建設へ!!

一般会計補正予算

質問 次期(平成28年度～37年度)仙北市総合計画策定の方向性を定める市民アンケートならば、補正予算でなく来年度の当初予算までに、じっくりと質問項目を練り、来年度の当初予算で行うべきでないか。

答弁 次期総合計画作成の日程は、アンケート内容の精査、業者への入札、無作為に抽出した市民の方々への発送、回収、集計、分析を行い、それまで各部局で練っていた構想と摺り合わせを行い素案を議会へ提示、平成28年3月完成の予定。また、各部局とのヒアリングで行政判断だけでなく市民アンケートを取らなければならないものも多かった。さらに、庁舎整備に向けた市民説明会で、市民の方々から合併後の市政に対するアンケートの必要性を指摘された等々による年度途中の総合計画作成のためのアンケート予算となった。

◇意見を附して可決

市総合計画の策定は、今後の市の指針と発展を左右する重要な事業であり、その策定の基礎資料とするための市民意向のアンケート調査は、調査期間、収集、分析、市各部局計画との摺り合わせ等長期間を要する事業で、本来平成27年度の当初予算で措置しなければならなかったのに、今議会の補正予算に計上する等、市政に対する緊張感が欠如しており、今後このような事のないよう緊張感を持って職務に精励するよう注意喚起する。



空き家対策条例による解体前

一般会計補正予算(主なもの)可決

| | |
|--------------------|---------|
| ■市有林管理費(上桧木内部落会) | 3,221千円 |
| ■総合計画策定費(アンケート調査費) | 2,985千円 |
| ■危険空き家対策費(2棟分) | 1,000千円 |
| ■一般教育総務費(参考書購入費) | 8,197千円 |
| ■冬期スクールバス運行費(料金改定) | 4,428千円 |

特別会計補正予算(主なもの)可決

| | |
|---------------------|----------|
| ■集中管理・職員給与費(減額) | 14,298千円 |
| ■生保内財産区・分収林交付金(新農会) | 1,037千円 |

仙北市過疎地域自立促進計画の変更について 可決

(広域中央斎場改築に伴う所在地変更)

市民バスの指定管理者の指定について

| | |
|------------------------------|----|
| ■中川線・下延八割線→「指定管理者」→「株式会社西宮家」 | 再認 |
| ■向生保内線→「指定管理者」→「ロイヤル交通」 | 可決 |

質問 ロイヤル交通の選定理由について

答弁 選定委員会からロイヤル交通の職員は運転のプロ集団で長年営業車を運転してきたキャリアがある方々で、人命を預かることを優先に考えると非常に信頼できる。また交通安全についても遵守していただける確信がもてるとの意見があったため。



解体後

市民福祉常任委員会

市立角館総合病院移転改築 入札不調により

12億2,600万円追加予算可決 工事費総額約73億円

市立角館総合病院の移転改築事業は、現在用地造成工事が進んでいるが、その一方で、病院建物の建築工事入札は平成26年9月1日に実施される予定であった。ところが、参加業者が全て入札を辞退し、その結果、入札が不調となり現在に至る。市でこの原因を調査したところによると、資材や人件費の急激な高騰により市が当初見積っていた金額と実勢価格の間に大幅な開きがあったことが分かった。市では実勢価格をもとに再度積算をした結果、当初の本体工事費約58億4,300万円に対し、更に12億2,600万円を追加し、本体工事費70億6,900万円とする補正予算案を12月定例会に提案した。外構工事費2億6,300万円と併せ全体の工事費は約73億円となる。市民福祉委員会では、予算が大きくかけ離れていた原因や、今後の病院経営に与える影響などについて議論が集中した。

角館病院建築 全体工事費 単位：千円

| 項目 | 当初の予算額 | 12月補正額 | 補正後額 |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 本体工事 | 5,843,498 | 1,226,000 | 7,069,498 |
| 外構工事 | 263,082 | 0 | 263,082 |
| 合計 | 6,106,580 | 1,226,000 | 7,332,580 |

本体工事費内訳 単位：千円

| 項目 | 当初の予算額 | 12月補正額 | 補正後額 | 上昇率 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 建築工事 | 3,266,570 | 744,257 | 4,010,827 | 22.8% |
| 電気設備工事 | 1,053,226 | △13,170 | 1,040,056 | △1.3% |
| 空調設備工事 | 860,160 | 311,593 | 1,171,753 | 36.2% |
| 給排水衛生設備工事 | 617,052 | 168,703 | 785,755 | 27.3% |
| 外構工事 | 46,490 | 14,617 | 61,107 | 31.4% |
| 工事費合計 | 5,843,498 | 1,226,000 | 7,069,498 | 21.0% |

再入札は1月29日実施

角館病院の再入札は1月29日に前回の入札方法を一部変更して実施される。

主な変更内容

- 工期延長 16ヶ月⇒20ヶ月
- 予定価格は非公表
- 入札時 VE 提案方式を採用 ※1

予算アップで設計監理費用も増額

質問 建設工事が始まれば、設計業者が施工監理を行うと思われるが、建設費用が増額され、工期も延びることに伴い、設計監理費用も増額になるのか。

答弁 設計監理費については、以前より予定している4,117万円の範囲ですべて契約したい。今後、設計監理費用の増額は無い。



北浦環境センター

～今後の病院経営を問う～

質問 建設費の大幅な増額により、今後の病院経営は大丈夫か。

答弁 医療内容と信頼の向上、経費削減に努める。救急を死守するためにも、今回計画した病床数が必要であり、また、規模縮小は小児科や産婦人科などの必要性を阻害する。なんとしても、この町の医療を守るため、将来この病院が負の遺産ではなく市民の財産となるよう、不退転の覚悟で経営に臨む。

条例・補正予算 ～こんな内容を決めました～

- ◇塵芥処理費 6,220千円 角館最終処分場の計装機械の更新
- ◇ごみ処理場管理運営費 7,575千円 ごみ処理場の機械修繕と燃料費
- ◇国民健康保険特別会計 40,988千円
- ◇仙北市福祉事務所設置条例の一部を改正する条例制定について
- ◇仙北市国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について
- ◇公の施設の指定管理者の指定について（田沢湖デイサービスセンター）

産業建設常任委員会

企業誘致の早期実現を ～工場用地の追加取得を反対多数で否決～

市では、青森県内で食品加工工場を営む企業を誘致するため、これまで約2億円の予算（土地買収・用地造成費）を投入し、生保内黒沢地内に工場用地（約27,600㎡）を取得し準備中であるが、この度、企業側から用地の追加を求められ、12月定例会に追加用地（4,000㎡）を取得する議案と、それに伴う土地造成予算（20,148千円）が提案された。産業建設常任委員会では、企業の進出が未だ決定的ではない段階での、更なる追加用地取得は認められないとの意見が大勢を占め、反対多数で否決された。

ここが知りたい議論のポイント

- 質問** 現地法人の設立はいつになるのか。
答弁 企業側の意向は造成工事完了後。市では早期の法人設立を求める。
- 質問** 用地不足は工場規模拡大などが要因とのことだが、具体的な工場配置図は。
答弁 企業側では追加分も含め造成工事が完了しなければ示すことはできないとの見解。
- 質問** 今後更なる用地の追加等はあるのか。
答弁 企業側からはこれ以上の要望は受けていない。今後は企業側での対応を求める。
- 質問** 廃水処理など環境への影響はないのか。
答弁 河川への排水放流については今後漁業組合と協議する。また、下水道への排水も求めている。

なぜ反対・なぜ賛成 ～委員会討論～

主な反対理由（反対4）

- ・地元の雇用創出のため誘致実現を求めるが、現段階で企業が必ず進出する担保がない。
- ・現地法人設立のスケジュールや、用地を追加取得するにも関わらず具体的な図面等が示されていない。
- ・内容に不確定な要素が多すぎる。
- ・用地の追加は進出が確定してからでも良いのでは。

主な賛成理由（賛成1）

- ・地域を元気にするため、追加用地を取得して企業誘致を早期に実現するべきである。



㈱司食品工業建設予定地



廃止となる木質バイオマス施設

補正予算 ～こんな内容を決めました～

- 米価下落対緊急支援事業費補助金 11,825千円
H26年産米の「あきたこまち」以外の品種へ60キロあたり200円を補助
- 水稲種子購入緊急支援対策事業費補助金 12,258千円
H27年度米の種子購入に対する補助金
- 木質バイオマス施設管理運営費 20,966千円
木質バイオマス施設廃止に伴う電気工事費と、クリオン、にしき園の電気料
- 道路維持補修費 5,207千円
冬期間終了後の道路補修費と真崎地下道の照明修理費
- 下水道事業特別会計補正予算 213千円
- 集落排水事業特別会計補正予算 △2,000千円
- 浄化槽事業特別会計補正予算 △9,586千円
- 簡易水道事業特別会計補正予算 137千円
- 温泉事業会計補正予算 1,943千円

議会報告と意見交換会(報告)

平成26年11月8日
午前10時開会
3地区同時開催

- 各地区から寄せられた要望・提言を市長に提出しております。その見解等については、議会ホームページに掲載致します。
- 議会への意見要望等は、今後の議会活動に反映させます。

| 地域名 | 田沢交流センター | 白岩集落センター | 桧木内公民館 |
|-----|----------|----------|--------|
| 参加者 | 7名 | 10名 | 16名 |

◎意見交換会 (多くのご意見をいただきましたが紙面の関係上議論の集中したものを掲載しております)

| 参加者の方の意見 | 参加議員の意見 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○司食品の誘致について ◇企業に対して多額の税金を投入して問題がないか。 ◇いいことは早めに手を挙げ、議会の決断も早めにするべきである。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆企業誘致には、工業団地を準備して提供するのが通常だが、仙北市にはないので造成まで市が責任を持っている。 ☆早めに対応したが、用地取得に時間を要し計画どおりだと工場は完成していた。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○市庁舎の整備について ◇現在の分庁舎方式で不便は感じない。統合庁舎の建設より、地域の振興策が先であり、整備後の市の財政、建設場所等含め十分な論議をして、市民の納得の行く庁舎整備とすべきでないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆庁舎の整備方法について、分庁舎方式か統合庁舎方式か、議会の意見は統一になっていない。庁舎より地域振興を優先するとともに、市民の皆さんとの十分な論議を得て、納得の行く庁舎整備とすべきである。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ○市立角館総合病院の改築について ◇市立田沢湖・角館病院両病院の赤字は異常な状態である。人口減少により外来、入院患者、診療報酬等も減っていく中で企業会計とはいえ、最後は市民が負担しなければならないのではないかと。又、田沢湖病院の活用は考えられないのか。 | <ul style="list-style-type: none"> ☆市立病院は市民の命を守る砦として、地域の安心安全のために寄与しなければならない。そのためには赤字であっても良いという事ではない。大曲仙北広域2次医療圏の中でベット数等県の指導を受けながら改築後の病院対応により患者数増を図るよう指導する。 |

◎市への要望・提言

- ◇兄弟で保育園に別々に入所しているので改善してほしい。
- ◇「地域のため土地・家を市へ提供したい。」という方がいる。市で有効活用できないか。
- ◇児童・民生委員会協議会の会計監査が内部監査で終わっている。市も入って外部監査すべきでないか。
- ◇非課税世帯へ住宅用火災警報器の設置補助をして欲しい。
- ◇秋田内陸線に「観光」の名前を付け、本社を新幹線が走る角館に置き、攻めの営業をして欲しい。
- ◇地域運営体事業をプレゼンテーション方式や用途を明確にする形に変える事が必要。
- ◇市民に対する市職員の対応が悪いので、市長及び市幹部職員は職員を公僕であるという自覚を持つよう指導するべきである。
- ◇桧木内・西明寺地区で運行のデマンドタクシーは予約しなければならず不便なので市営バスの運行を要望する。

■人事案件

- 仙北市教育委員会委員
河原田 修氏 (仙北市角館町上菅沢164番地)
- 仙北市農業委員会委員 (議会推薦)
佐藤 善栄氏 (仙北市田沢湖刺巻字明戸23番地)
- 山本 實氏 (仙北市角館町山谷崎字山谷385番地)
- 齋藤瑠璃子氏 (仙北市西木町小山田字林崎84番地)
- 平岡裕子氏 (仙北市田沢湖小松字寄合105番地2)

予算常任委員長報告

平成25年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について
各分科会の意見・要望要約

1 市税の未収について

県の地方税滞納整理機構と共に収納対策を実施し、一定の収納効果は上げている。今後、地方交付税が減少し市財政は、かなり厳しくなると危惧される。市税の不納欠損及び収納未済額が増加しないように、自主財源の確保に向け、より一層の努力をして頂きたい。

2 地域運営体について

「地域の活性化を担う中核になって頂きたい」という事でスタートした運営体だが、

今後の市財政を勘案した場合、未来永劫、交付金を措置することは厳しいと懸念される。

今年度から、一律500万円の交付金を見直し、地域の人口や面積に応じた制度に変更された。運営体としての収益を原資とした【運営体の自立】も目指し、地域の活性化を図っていただきたい。

3 離職者等就労支援事業費補助金について

就労意欲のある生活保護世帯の方をサポートする就労支

援員を1名雇用。平成25年度は63名の方を対象に就労支援を行い、12名が就労された。

4 敬老祝い金支給事業費について

平成25年度は、80歳が442名で前年度比21名の増。88歳は205名で44名の増。99歳は14名で6名の増である。今後、支給対象等の検討をする。

5 来年度の予算編成に向け、秋田スギバイオエネルギーセンターの結論を、12月定例会までに決定して頂きたい。

昨年度の種苗交換会で、本市の受賞者が多かった事に着眼し、仙北市農業全体の発展に活かして頂きたい。

7 道路の除草にあたり、市内一斉の除草デーを設けてはどうか。

8 市民参加型インフラ維持整備事業は、より使い易くなるように機械等の経費についても検討頂きたい。

● 反対討論（不認定理由）

1 市の財源を確保するには、市民が豊かになり担税力を高めていく事が不可欠で、市の政策が市民の生活向上に繋がらなければならぬ。しかし、現実は自主財源は伸びず、依存財源の地方交付税も減額されつつある。

【採決】

賛成多数で認定すべきものと決定。

（熊谷一夫記）

発言は永久に残るものである。それをわきまえ、第三者の名誉や議会の権威を傷つけないよう慎重に発言する必要がある。

議員全員が、今回の事を教訓に、きちんと襟を正して発言し、活発で、前向きな議論が展開される議会を作り上げていく事が仙北市議会の名誉回復に繋がっていく事になると考える。

（熊谷一夫記）

言論の品位

本会議最終日に、A議員より一般質問の不穏当部分の発言取り消し要請があり、議会運営委員会で協議した。

議会運営委員長からは、「発言の取り消しを許可する。取り消す不穏当部分については、議長に一任する」とした。更に、A議員より陳謝を認める事に全会一致で決定したとの報告があった。これを受けて、本会議で、本人より、市

議会と仙北市民の皆様にお詫びと陳謝を行った。

議長からも「議会における発言については、議会の品位を保持し、市民に不快感を与えないよう、今後、十分に留意する事を申し添える」との注意があった。

事の発端は、一般質問で、A議員が、市立角館病院の新築事業費が再び増額される事についての議論で、議会の品位を欠く喻えを用いた不穏当な発言があったからである。

新聞のコラムにも、掲載され、しかも、インターネット

中継で全国・全世界へ流れた事で、仙北市議会全体の品位を著しく低下させた事はない。ある政治家は、「議員は議会での質問が命だ」と教えられた。庶民が何を悩み、希望し、課題は何か、現場を踏まえて質問する。毎回、万全の準備と体調を整えて、臨んでいるとの事。こういった姿勢が不足していたのではなかったかと思う。

地方自治法第132条に

（言論の品位）

普通地方公共団体の議会の会議又は委員会においては、議員は、無礼の言葉を使用し、又は他人の私生活に渡る言論をしてはならない。

と、記載されている。

議会は住民代表の場であるから、そこでの発言には品位がなければならぬ。議会の

傍聴席

市議会を傍聴して

佐々木功（角館町）

12月議会の一般質問を傍聴させていただきました。議員にとっても華やかな意義のある発言の場でもあります。また市民から重大な関心と期待をもたれる議員活動の場です。

そして自己アピールできる絶好の場面でもあります。裏には多くの支持者、多くの市民の目があることだけは忘れられない。教えてください。

質問する側、答弁する側それぞれ、思い入れがあります。TVの国会中継で真剣なやり取り、感情剥き出しの応酬をよく見ます。そこまでは求めませんが今一度の応酬を望みたいものです。

議員二人の質問時間60分では再質問、再々質問を含めて足りないような気がしました。

議員が質問することは市全体の用件を含んでいます。他の議員も、この質問は自分とは関係ない・自分の地域とは無関係というような対応が感じられました。

質問自体にも更なる突っ込んだ積極的なものが不足しているように感じ、何となく通過したようにも感じました。質問する側も今一度絞り込んだ、的確な要点での質問を期待します。

質問が終了して結果的には何が？どうなったの？どうなる

の？…というのが素直な感想です。

質問が一過性に終わることのないよう双方ともに十分な協議を重ねて欲しい、また予算も伴う事案も当然ありますので充分な審議を求めます。

一般質問、貴重な60分、市民の要望要件がびつり詰まっている60分、更なる充実を期待します。

一般質問の後にはどのような顛末となるか見定めたいと思います。

控室

12月16日の予算常任委員会終了後に議員控え室や会議室が全部使用された。

18・19日の予算委員会と本会議での討論・採決への会派内協議と意見集約の為に。会派制の議論は多々あるが、本市議会運用例では「会

派としての議案に対する表決の方向性を調整し、議案質疑から委員会審査、討論、採決に臨むこととする」とある以上、国会の政党とはいかないまでも、会派の数の力は大きい。会派代表のまとめ役としての力量の見せ所でもある。吉田松陰は、捕縛され江戸へ送られる直前に、弟子に対して有名な「至誠にして動かざるものは、未だ之れ有らざるなり」「孟子」と言った。誠実に市民の中に入り、動き、民意を政策に反映させる重要性と決断を求められることに、幕末と平成の違いはあ

れ、政（まつりごと）に席を置く者としての心は同じものと思う。常に将来に禍根を残す議決だけは致すまいと熟慮しながら、本会議に臨む心だけは持ちたいものである。

（熊合一夫記）



出初式での振舞餅

本年仙北市誕生10周年を迎える。議会広報も9月定例会号で創刊号から記念すべき40号になる。暫定議会から発して多くの議員が議会広報の編集に携わって来た。刺激の強い文章を掲載すれば賛同の声もあれば、批判の声もあがる。毒にも薬にもならない文面にするとも誰も読まなくなる。絶えず二律背反とも言おうべきジャンルの中で議会広報の立ち位置はどうあるべきなのか、当局との距離や緊張関係はどうあるべきなのか、編集委員は悩まされてきた。当委員会でも井の中の蛙でならずと、昨年全国議会広報コンテストで最優秀賞を獲得するなど、活躍が目覚ましい山形県庄内町に先進地研修をしてきた旨を9月定例会報で報告し、本紙の刷新を宣言しましたが16ページという枠の中、見出しを大きくしたり写真を多用するとその分、文章の文字数が制限されるという制約に喘ぎながら試行錯誤を繰り返して、少しでも見やすい、読みやすい広報になるよう頑張っていますので本年も忌憚のない助言を宜しくおねがいします。

（阿部則比古記）

編集後記